

シンポジウム

プロレタリア文化運動とエスペラント運動

東アジアの越境と芸術ジャンルの横断

本シンポジウムでは、日本を含む東アジアのプロレタリア・エスペラント運動や美術運動に関する研究実績がある各氏をお招きし、世界共通語を志向したエスペラントが、主にプロレタリア文化運動との関わりにおいて、東アジアの各地域における文化人の連帯を促したことや、美術をはじめとする文学以外の芸術ジャンルにも影響を及ぼしたことについて検討する。

1920年代後半から1930年代前半にかけての台湾では、プロレタリア文化運動の一環としてエスペラント運動が展開され、エスペラントを介した台湾文化の発信が企図された。また、台湾だけでなく、日本や中国、朝鮮など東アジア全体において、エスペラントによる文学作品の翻訳や制作に関する実験的な試みがなされた。さらに、エスペラントが体現する「万民平等」の理念は、言語や文学のみならず、絵画や写真など、芸術家たちの表現活動に広く影響を与えた。

以上をふまえ、東アジアにおける地域間の越境、言語や美術などのジャンル横断をキーワードに議論することで、日本のプロレタリア・エスペラント運動の相対化を試みたい。

日時：2026年3月7日（土）14:00～17:30（JST）

会場：九州大学西新プラザ・大会議室A（ハイブリッド開催）

使用言語：日本語

事前登録必要（3月5日〆切）<https://forms.gle/YztoFF2jUj2hA5q69>

プログラム

司会……鴨川 都美（久留米工業高等専門学校）

【第Ⅰ部 基調報告】

呂 美親（国立臺灣師範大學）

日本統治下における台湾プロレタリア・エスペラント運動のカタチ——連温卿と荘松林の取り組みをめぐって

エドウィン・ミヒールセン（香港大学）

同文同声で書く——東アジアのプロレタリア・エスペラント文学における国際性の実験

足立 元（二松學舎大学）

日本の芸術史におけるエスペラント

【第Ⅱ部 ディスカッション】

ディスカッサント……相川 拓也（東京大学）

PROLETA
KULTUR-
MOVADO

主催：JSPS 科研費 JP25K00450：プロレタリア文化運動研究のプラットフォーム構築と応用：学際性と国際性を視座にして（研究代表者：和田 崇）

問い合わせ：九州大学比較社会文化研究院・和田 崇
wada@scs.kyushu-u.ac.jp

→参加登録フォーム



SIMPOZIO